

平成26年度



農と環境を活かした
まちづくりの推進

農産物研究専門部会

第2回専門部会 説明資料



平成26年 10月2日

目次

■平成26年度の活動報告(中間報告)

- | | |
|------------------|----|
| 1. 活動の目的等 | 4 |
| 2. 今年度の活動概要 | 5 |
| 3. 活動報告 | 6 |
| 4. 今後の予定(平成26年度) | 11 |
| 5. まとめと今後に向けて | 16 |
| 6. 次年度の活動(案) | 17 |

■収穫祭との連携

- | | |
|------------|----|
| 1. 実施概要 | 19 |
| 2. 実施事項(案) | 20 |

■農と環境を活かしたまちづくり

黒川地区基本計画(案)(3部会共通資料)

- | | |
|----------------------------|----|
| 「農と環境を活かしたまちづくり黒川地区基本計画」とは | 24 |
| 1. 背景 | 25 |
| 2. 対象地 | 26 |
| 3. 基本目標と基本方向 | 27 |
| 4. 実施方針 | 28 |
| 5. H28以降の実施事項(案) | 29 |
| 6. <参考>平成26・27年度の実施事項 | 30 |

■平成27年度のデザイン祭(プレ)について

- | | |
|-----------------------|----|
| 1. 背景 | 32 |
| 2. イベント(デザイン祭)の基本的考え方 | 33 |
| 3. 実施概要 | 34 |
| 4. 基本的な進め方・実施体制等 | 35 |
| 5. 実施する主な枠組み | 36 |
| 6. 里地里山デザイン祭展開エリア | 37 |
| 7. デザイン祭でのアイデア例 | 38 |
| 8. 実施期間(たたき台) | 40 |
| 9. 開催に向けたスケジュール | 41 |
| 10. 開催に向けた留意事項・調整事項 | 42 |



平成26年度の活動報告(中間報告)



1

活動の目的等

(1) 農産物研究専門部会の目的

将来、農畜産物、林産物及びその他の加工品の栽培や販売などにおける課題を整理し、地域の活性化につながる農産物等の調査・研究を行う。

(2) 取組み方針と今年度の具体化施策

取組みの方向性	取組み項目	具体例
新規農産物や加工品の開発検討	<ul style="list-style-type: none"> 郷土作物の発掘、伝統野菜の調査 新規作型や新規農産物の研究 農産加工品の検討・商品開発 商品化検討(販路、販促等) 	1) 新規農産物や郷土作物の栽培 2) 農産加工品の検討、開発、商品化検討等
農産物のイベントでの活用やPRの推進	<ul style="list-style-type: none"> 商品化可能性調査、試験販売 農家等への栽培普及促進 商品普及検討 	3) マニュアル作成配布 4) 提案会の実施 4-1) 種苗配布等 4-2) 試食会の実施等
農産物を活用した大学連携・地域コミュニティづくり	<ul style="list-style-type: none"> 大学と連携した商品開発 大学と連携した新規農産物研究 農を通じたコミュニティづくり (農業者への協理理解の促進) 	5) 大学と連携した商品開発 5-1) シカクマメを使った味噌 5-2) テンペ 6) 収穫祭での黒川野菜のPR 6-1) 農作物・加工品の販売 6-2) 黒川野菜を使った料理の配布

2

今年度の活動概要

項目	概要(ねらい等)
1) 新規農産物や郷土作物の栽培	黒川らしい地域の農産物等の調査・研究と、新規作型や新規農作物の研究により黒川地域の活性化につなげる。
2) 農産加工品の検討、開発、商品化検討等	農業者への提案に向け、大学生のアイデア参加も視野に入れつつ、多くの加工品を検討する。
3) マニュアル作成配布	郷土作物や新規農産物の普及に向け、作物の育て方等のマニュアルを作成し、栽培を希望する農家に種苗とともに配布する。
4) 提案会の実施 4-1) 種苗配布等 4-2) 試食会の実施等	郷土作物や新規農産物の普及に向け、農業者へ提案会を行う。 栽培を希望する農家に対し、作物の育て方等のマニュアルとともに種苗を配布する。 提案会で提案した作物の中から、いくつかの品目に関して、試食会を行う。
5) 大学と連携した商品開発 5-1) シカクマメを使った味噌 5-2) テンペ	明治大学と連携し、黒川の農作物を使った商品開発の検討を行う。 商品化が有力な作物について、具体的な商品作りの為のプランを立てる。
6) 収穫祭での黒川野菜のPR 6-1) 農作物・加工品の販売 6-2) 黒川野菜を使った料理の配布	セレスモス、かわさき地産地消推進協議会と連携し、明治大学収穫祭にて黒川野菜の直売や、黒川野菜で豚汁を作り市民に配布を行い、黒川野菜のPRを行う。



1) 新規農産物や郷土作物の栽培

目的 : 黒川らしい地域の農産物等の調査・研究と、新規作型や新規農作物の研究により黒川地域の活性化につなげる

実施場所 : 農業振興センター、農業技術支援センター、協力会畑・農家畑、明治大学黒川農場

実施作物 : シカクマメ、岩ちゃん豆、のらぼう菜、ハッシュョウマメ、湘南ポロモン、ミニニンジン

各施設で実施した試験栽培品

農業振興センター	シカクマメ、岩ちゃんマメ、のらぼう菜
農業技術支援センター	シカクマメ、岩ちゃんマメ、のらぼう菜、ハッシュョウマメ、湘南ポロモン、ミニニンジン
協力会畑・農家畑	シカクマメ、岩ちゃんマメ
明治大学黒川農場	シカクマメ、岩ちゃんマメ、カイグワ、ヘビウリ



農業振興センター



農業技術支援センター



協力会畑



明治大学

3

活動報告

■試験栽培の概要

シカクマメ

- 特徴** : マメ科シカクマメ属の草木になる実鞘で、熱帯アジア原産とされている。実の断面がひだのついた四角形をしている。
- 栽培場所** : 農業振興センター、農業技術支援センター、協働会畑、明治大学黒川農場
- 活用方法** : 炒め物や天ぷらなどの揚げ物、茹でたものをサラダや和え物、大豆とともに発酵させ味噌にする。
- 栽培意図** : 一般的に生産されておらず、特徴を出しやすい。明治大学佐倉先生の味噌作りとともに取り組む事で、黒川と明治大学が連携した特産加工品として開発を行う。



シカクマメ



シカクマメの花



シカクマメの実(乾燥前)



シカクマメの実(乾燥後)

岩ちゃんマメ

- 特徴** : 豆とは思えないほど、食感が“ねっとり”としていて甘みが強い。台風の影響を受けやすく栽培に手間がかかる。
- 栽培場所** : 農業振興センター、農業技術支援センター、協働会畑・農家畑
- 活用方法** : 一般的なササゲと同様に茹でて食べる他、生で食べてもおいしい。
- 栽培理由** : 黒川の“川端岩蔵”さんが栽培し、見た目の珍しさと独特の食感が評判となり、一時は黒川で多く作られていたが、最近あまり作られていない。郷土作物として生産の復活を試みる。



岩ちゃん豆



岩ちゃん豆



岩ちゃん豆



岩ちゃん豆の花

3

活動報告

ハッシュョウマメ

特徴 : マメ科ムクナ属の草木になる実鞘。インド原産とされていて、1本の木から八升収穫できる事から、八升豆と言われる。

栽培場所 : 明治大学黒川農場、農業技術支援センター

活用方法 : カレーやスープの具（保温ポットで一晩つけておいた豆を煮豆にする）。きな粉（十分に炒めてからミルなどで挽く）。豆ごはん（ごはんと一緒に炊く）。

栽培理由 : 健康食品として販売されているがあまり流通していない。L-DOPAのアレロパシー効果により、動物や虫が寄らないので、他の作物と育てるのに向いている。黒川での生産を試行していく。



ハッシュョウマメ



ハッシュョウマメの蕾

のらぼう菜

特徴 : アブラナ科アブラナ属の野菜。作物が少ない冬の時期に栽培、収穫できる。川崎市では多摩区菅地区で古くから栽培されている。

栽培場所 : 農業技術支援センター

活用方法 : おひたし、ごま和え、バター炒め、マヨネーズ和え、味噌汁の具、スイーツや加工食品の材料。

栽培理由 : 昔からの産地である川崎市多摩区菅地区で主に生産されており、神奈川県の特産品としても売り出している。味に癖がなくスイーツや加工食品化に向いている。黒川でも最近生産が増えてきており、更なる生産拡大を推進していく。



のらぼう菜



のらぼう菜の苗



のらぼう菜



のらぼう菜

湘南ポモロン

- 特徴 : 生食・調理兼用トマトで、果実の大きさは80g程度。細長い形で調理しやすい。果肉が厚くて煮くずれしにくく、生食にも加熱にも向いている。
- 栽培場所 : 農業技術支援センター
- 活用方法 : サラダ、ソテー、パスタ、スープ
- 栽培理由 : 神奈川県農業技術センターが平成25年に発表した新品種のトマトで、今後の普及が期待されるため、黒川での生産の拡大を図っていく。



ミニニンジン

- 特徴 : ニンジン特有の匂いが少なく、甘みがあるので、サラダなどで生食するのが一般的。ニンジン葉も栄養価が高いので、若くて柔らかい葉が食用に利用できる。
- 栽培場所 : 農業技術支援センター
- 活用方法 : 生食、一般的なニンジンと同様の調理方法。
- 栽培理由 : 最近の格家族化を背景に少量で使い切れる野菜の需要が高まっており、ミニニンジンについても今後の需要の伸びが見込まれるため、黒川での生産の拡大を図っていく。



■試験栽培の概要

カイグア

特徴 : カイグアはウリ科に属する、つる状の植物。ペルーを含むボリビアからメキシコまでの広い範囲に見られる。ダイエット効果について知られていて、カイグアを使用したダイエットサプリメントも多く見受けられる。

栽培場所 : 明治大学黒川農場

活用方法 : サラダ、炒めもの、肉詰め

栽培理由 : 明治大学佐倉先生が明治大学黒川農場内でとして研究を行っている。日本ではあまり流通していない為、新規作物としての可能性がある。地域とともに、新規作物としての試行を行う。



カイグア



カイグアの実



カイグア(雄花)



カイグア(雌花)

ヘビウリ (セイロン瓜)

特徴 : ウリ科のつる性の多年草。カルシウムやマグネシウムなど、ミネラル類を多く含み、低カロリー。「健康野菜」としても知られている。果実の長さが2m近く伸びるものもをヘビウリと呼ぶ。

栽培場所 : 明治大学黒川農場

活用方法 : 炒めもの、サラダ、かき揚げ、炒飯、カレー、スープ、漬物、和え物など。

栽培理由 : 明治大学佐倉先生が明治大学黒川農場内でとして研究を行っている。日本ではあまり流通していない為「新規作物」としての可能性はある。地域とともに、新規作物としての試行を行う。



ヘビウリ(セイロン瓜)



ヘビウリ(セイロン瓜)

4

今後の予定（平成26年度）

2) 農産加工品の検討、開発、商品化検討等

目的 : 農業者への提案に向け、大学生のアイデア参加も視野に入れつつ、多くの加工品を検討する。

概要 : 黒川の女性農業者に黒川の農作物を使った加工品について意見を伺う。

■事前ヒアリング実施

事前ヒアリングでの農業者の意見

- ・ミニニンジンのピクルス
- ・岩ちゃん豆を餡に使った大福



■検討会の開催

実施日時 : 10月～11月

ヒアリング対象者 : 黒川の女性農業者

備考 : 将来的に産業としてのブランド化を目指した場合は、市場の広がりや受け皿としての団体等も確認する必要があるため、別途検討する。

4

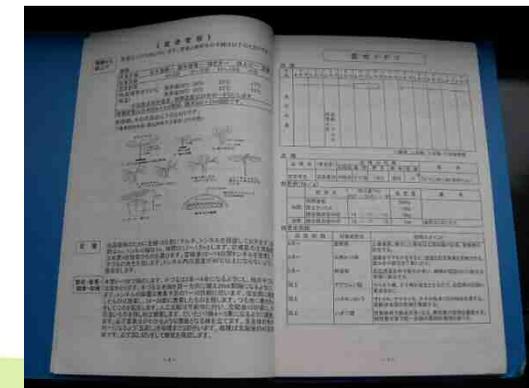
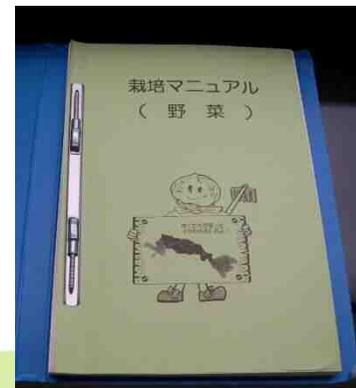
今後の予定（平成26年度）

3) マニュアル作成配布

目的 : 郷土作物や新規農産物の普及に向け、作物の育て方等のマニュアルを作成し、栽培を希望する農家に種苗とともに配布する。

作成状況 : のらぼう菜、湘南ポモロン（既有）
岩ちゃんマメ、ミニニンジン（未）

今後の予定 : 未だマニュアルのない「岩ちゃんマメ」、「ミニニンジン」については作成を行うとともに、既に作成済みのもものも、よりわかりやすいものとする。



既存マニュアル（イメージ）

4

今後の予定（平成26年度）

4）提案会の実施

- 実施内容：
- ・地域の活性化に資する新規農産物や加工品について、農業者へ提案する。
 - ・農業者に提案する際は、誰もが作れる技術マニュアルをセットで提案する。
 - ・市民との関わり（市民への試食会）にも配慮し、農作物の種類を考えるきっかけづくりも検討する。

時期：10月～11月
場所：黒川公会堂など
対象：生産組合黒川支部

4-1）種苗配布等

目的：提案会で取り上げた作物の一部の種苗を配布し、農業者の新規作物の育成への意欲を増す。

配布可能種苗

- ・のらぼう菜
- ・ミニニンジン

4-2）試食会の実施等

目的：提案会で取り上げた作物の一部を試食して頂く事で、農業者の新規作物の育成への意欲を増す。

試食会実施可能作物

- ・岩ちゃん豆
- ・ミニニンジン



4

今後の予定（平成26年度）

5) 大学と連携した商品開発

実施内容：明治大学と連携し、黒川の農作物を使った商品開発を行う。

検討商品：・シカクマメを使った味噌（佐倉先生）

- ・テンペ（佐倉先生）
- ・ミニニンジンのピクルス
- ・岩ちゃん豆を餡に使った大福

5-1) シカクマメを使った味噌

特徴：明治大学の佐倉先生の研究しているシカクマメを用いて味噌を開発し、明治大学と協働で商品化を行う事で、他との差別化を図る事が出来る。

実施者：佐倉先生

実施場所：明治大学農場



シカクマメ

5-2) テンペ

特徴：近年、健康食品としてクローズアップされており、今後需要の増加が見込まれる。

実施者：佐倉先生

実施場所：明治大学農場

※テンペ
インドネシア発祥の、大豆などをテンペ菌で発酵させた醗酵食品。最近では日本でも健康食品としてクローズアップされ、製造販売され、スーパーなどで販売されている。



テンペ（イメージ）

4

今後の予定（平成26年度）

6) 収穫祭での黒川野菜のPR

実施内容：収穫祭にて黒川で採れた野菜を使って豚汁を作り、市民に配布するとともに、黒川野菜の販売を行い、黒川野菜のPRを行う。

6-1) 農作物・加工品の販売

実施者：セレスモス

配布場所：正面広場



農作物の販売（イメージ）

6-2) 黒川野菜を使った料理の配布

実施者：かわさき地産地消推進協議会

（ふるさとの生活技術指導士）

配布場所：正面広場

配布数：250食



豚汁配布（昨年の様子）

5

まとめと今後に向けて（案）

方針	事業名	課題	対応
新規農産物 や加工品の 開発検討	1) 新規農産物や郷土作物の栽培	生産量が不安定。	安定した生産方法を確立する。
	2) 農産加工品の検討、開発、商品化検討等	検討にとどまっている。	農産加工品の試行実施、検証を行う。
農産物のイ ベントでの 活用やPR の推進	3) マニュアル作成配布	検討している農作物の中に、マニュアルを作成していないものがある。	より多くのマニュアルを作成し、農家の方への周知・普及を行う。
	4) 提案会の実施	農家の方の提案会への参加が少ない。	より多くの農家の方へ提案会の周知を行う。
	4-1) 種苗配布等		
4-2) 試食会の実施等			
農産物を活 用した大学 連携・地域 コミュニ ティづくり	5) 大学と連携した商品開発	検討にとどまっている。	商品開発の試行実施、検証を行う。
	5-1) シカクマメを使った味噌		
	5-2) テンペ		
	6) 収穫祭での黒川野菜のPR	一般的な品種や商品でのPRにとどまっている。	新規農産物や郷土作物や、黒川らしい個性のある農産加工品の販売を目指していく。
	6-1) 農作物・加工品の販売		
6-2) 黒川野菜を使った料理の配布			



6

次年度の活動(案)

方針	今年度の取組み	次年度に向けて	次年度の取組み
新規農産物や加工品の開発検討			
	1) 新規農産物や郷土作物の栽培	継続	H26と同様
	2) 農産加工品の検討、開発、商品化検討等	拡充	より具体的な加工品等の検討
農産物のイベントでの活用やPRの推進			
	3) マニュアル作成配布	拡充※	多様なマニュアルの作成
	4) 提案会の実施	継続※	より多くの農家への提案会の実施
	4-1) 種苗配布等	継続※	より積極的な種苗の配布
	4-2) 試食会の実施等	拡充※	より多くの農家への試食会の実施
農産物を活用した大学連携・地域コミュニティづくり			
	5) 大学と連携した商品開発	拡充	より活発な大学との連携
	5-1) シカクマメを使った味噌	継続※	商品化への検討
	5-2) テンペ	継続※	商品化への検討
	6) 収穫祭での黒川野菜のPR	継続	H26と同様
	6-1) 農作物・加工品の販売	継続	H26と同様
	6-2) 黒川野菜を使った料理の配布	継続	H26と同様

(仮称) 黒川デザイン祭(プレ)

※：実施した場合

収穫祭との連携



1

実施概要

■ 取組みの目的(3部会共通事項)

黒川地区の農と環境を活かしたまちづくりの認知促進を主眼に、次の取組みを行う。

- (1) 各部会の活動の成果発表
- (2) 大学及び地域連携イベント等の実施
- (3) アンケート調査の実施（ニーズの把握等）

■ 農産物研究専門部会の実施概要（案）

項 目	概 要
1) スライドショー・パネル展示	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動紹介 ・農と環境をいかしたまちづくり基本計画を紹介（3部会共通）
2) 黒川野菜・加工品のPR販売	<ul style="list-style-type: none"> ・セレスモスによる地場産の野菜や加工品の販売。
3) 黒川野菜を使った料理の配布	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとの生活技術指導士による地場産の野菜を使った豚汁の無料配布



2

実施事項（案）

1) パネル展示・スライドショー

■パネル展示

①今年度の活動紹介

- ・写真を使用して紹介する。

農産物研究専門部会

農産物研究専門部会の目的
 将来、農畜産物、林産物及びその他の加工品の栽培や販売などにおける課題を整理し、地域の活性化につながる農産物等の調査・研究を行う。

農産物研究専門部会の取り組み

■新規農産物や郷土作物の栽培
 目的：黒川らしい地域の農産物等の調査・研究と、新規作型や新規農作物の研究により黒川地域の活性化につなげる
 実施場所：農業振興センター、農業技術研究所、協力会畑、農家畑
 実施作物：シカクマメ、岩ちゃん豆、のらぼう菜、ハッシュウマメ、湘南ポモロン、ミニニンジン

各施設で実施した試験栽培品

農業振興センター	シカクマメ、岩ちゃんマメ、のらぼう菜
農業農業技術支援センター	シカクマメ、岩ちゃんマメ、のらぼう菜、ハッシュウマメ、湘南ポモロン、ミニニンジン
協力会畑・農家畑	シカクマメ、岩ちゃんマメ
明治大学	シカクマメ、岩ちゃんマメ、カイクワ、ヘビウリ



農業技術支援センター



農業農業技術支援センター



協力会畑



明治大学

②基本計画の紹介

- ・平成28年度以降の本格活動に向けた基本計画について紹介。

地域で守り育てる身近な農と環境

～地域の農業資源・環境資源・人的資源を活用した地域の活性化や地域交流の推進～



基本目標

基本方向

実施方針

地域・大学・区民・行政等の協働により下記の方針を推進

地元農産物の販売促進と加工品の開発	農や里地里山を体感するイベントの実施・PR	里山の管理や活用の推進
-------------------	-----------------------	-------------

農産物等研究専門部会

農畜産物、林産物及び加工品の栽培や販売などにおける課題を整理し、地域の活性化につながる農産物等の調査・研究を行う。

①新規農産物や加工品の開発検討
 ②農産物のイベント活用やPRの推進
 ③大学連携・地域コミュニティづくり

地域活性化検討専門部会

農や緑、環境を通じた地域の活性化や地産地消の推進につながるイベント等の実施や必要な施設等の検討を行う。

①農と里山の体感
 ②地域資源の発見・創造・育成
 ③地域・大学・行政との協働

里地里山保全活用専門部会

多摩丘陵の里地里山の地域的価値を見出し、里地里山の保全、再生、活用を目指す。

①里地里山の認知促進
 ②里地里山保全管理体験の推進
 ③里地里山を活用した大学連携・地域コミュニティづくり

2

実施事項（案）

■スライドショー

①今年度の部会活動紹介

- ・写真を使用して紹介する。

シカクマメ

特徴 : マメ科シカクマメ属の草木になる実鞘で、熱帯アジア原産とされている。実の断面がひだのついた四角形をしている。

栽培場所 : 農業振興センター、農業技術支援センター、協力会畑・農家畑、明治大学

活用状況 : 炒め物や天ぷらなどの揚げ物、茹でたものをサラダや和え物、大豆とともに発酵させ味噌にする。

栽培意図 : 一般的に生産されておらず、特徴を出しやすい。明治大学佐倉先生の味噌作りの開発とともに取り組む事で、黒川と明治大学が連携して完成させた特産加工品として売り出す事が出来る。



シカクマメの圃場の様子



シカクマメの実(乾燥前)

シカクマメの実(乾燥後)

(イメージ)

②基本計画の紹介

- ・平成28年度以降の本格活動に向けた基本計画の紹介。

3 基本目標と基本方向



(イメージ)



2

実施事項（案）

2) 黒川で採れた農作物・加工品の販売

- 目的 : 黒川の農作物や加工品を食べ、知ってもらい次回の購入につなげていく。
- 実施者 : セレサモス
- 時間 : 12時～
- 開催場所 : 正面広場
- 対象 : 収穫祭見学者
- 内容 : セレサモスやふるさとの生活技術指導士により農産物や農産加工品の販売を行う。



黒川で採れた農作物・加工品の販売
(イメージ)

3) 黒川野菜を使った料理の配布

- 目的 : 黒川の野菜を使った料理を食べてもらう事により、黒川野菜や加工品の良さを知ってもらい次回の購入につなげていく。
- 実施者 : かわさき地産地消推進協議会
(ふるさとの生活技術指導士)
- 時間 : 12時～
- 開催場所 : 正面広場
- 対象 : 収穫祭見学者
- 内容 : ふるさとの生活技術指導士により地場産の野菜を使った豚汁を作り無料配布を行う。



郷土作物・新規作物の試食会
(昨年の様子)



農と環境を活かしたまちづくり
黒川地区基本計画(案)
(3部会共通資料)



「農と環境を活かしたまちづくり黒川地区基本計画」とは

黒川地区では、「農産物等研究専門部会」「地域活性化検討専門部会」「里地里山保全利活用専門部会」の3つの部会により、平成28年より具体的な農と環境を活かしたまちづくりを進める予定である。

そのため、平成26年度では、平成28年度からの本格実施に向け、農と環境を活かしたまちづくりの方向性、道筋、具体的な取組み等について、基本計画としてとりまとめるものである。

平成27年度には、具体的な実施計画を作成し、本格的な活動につなげていく。

基本計画及び実施計画の作成にあたっては、様々な取組みを具体的に試行し、評価を行いつつ、実施の取組みを見定め、計画にまとめていく。

また、本まちづくりの中で、各部会での個々の取組み課題を総合的解決につなげ、黒川地区の「地域-人-資源」をつなぎ、一体的な活動の起爆剤となる「デザイン祭(仮)」を開催する。



1 背景

農が抱える課題

- 都市農地の再評価と保全策への対応
- 農家・農業後継者の減少
- 既存の農業経営から高齢社会を見据えた都市農業経営への転換
- 「農」に対する全市的な合意形成

解決の方向性

- かわさき「農」の新生プランにおける推進体制の確立

緑が抱える課題

- 黒川地域を含む多摩丘陵の自然環境の保全にむけ、農業施策と緑地保全施策の連携の必要性
- 生物多様性の保全や環境学習の確保等の観点から里地里山環境の保全と「農ある風景」の継承

解決の方向性

- 市民協働による地域ぐるみの緑地保全活動の推進

地域が抱える課題

- 第1期区民会議の議論
区特性である「農」を通じた、「地域づくり」への活かし方
- 第3期区民会議の議論
市域の緑が43%集積する区の緑の維持管理の仕方及び市民ボランティアなどの力の活用方策

解決の方向性

- 区の資源である農と緑を活かしたまちづくりの推進

地域・関係者間での課題解決への施策検討・計画及び試行実施



黒川地域での変化（地域資源の創出）

- 平成20年に大型農産物直売所「セレサモス」の開所
- 平成24年に明治大学黒川農場の開場

黒川地域連携協議会：平成21年設置（平成25年度改訂）

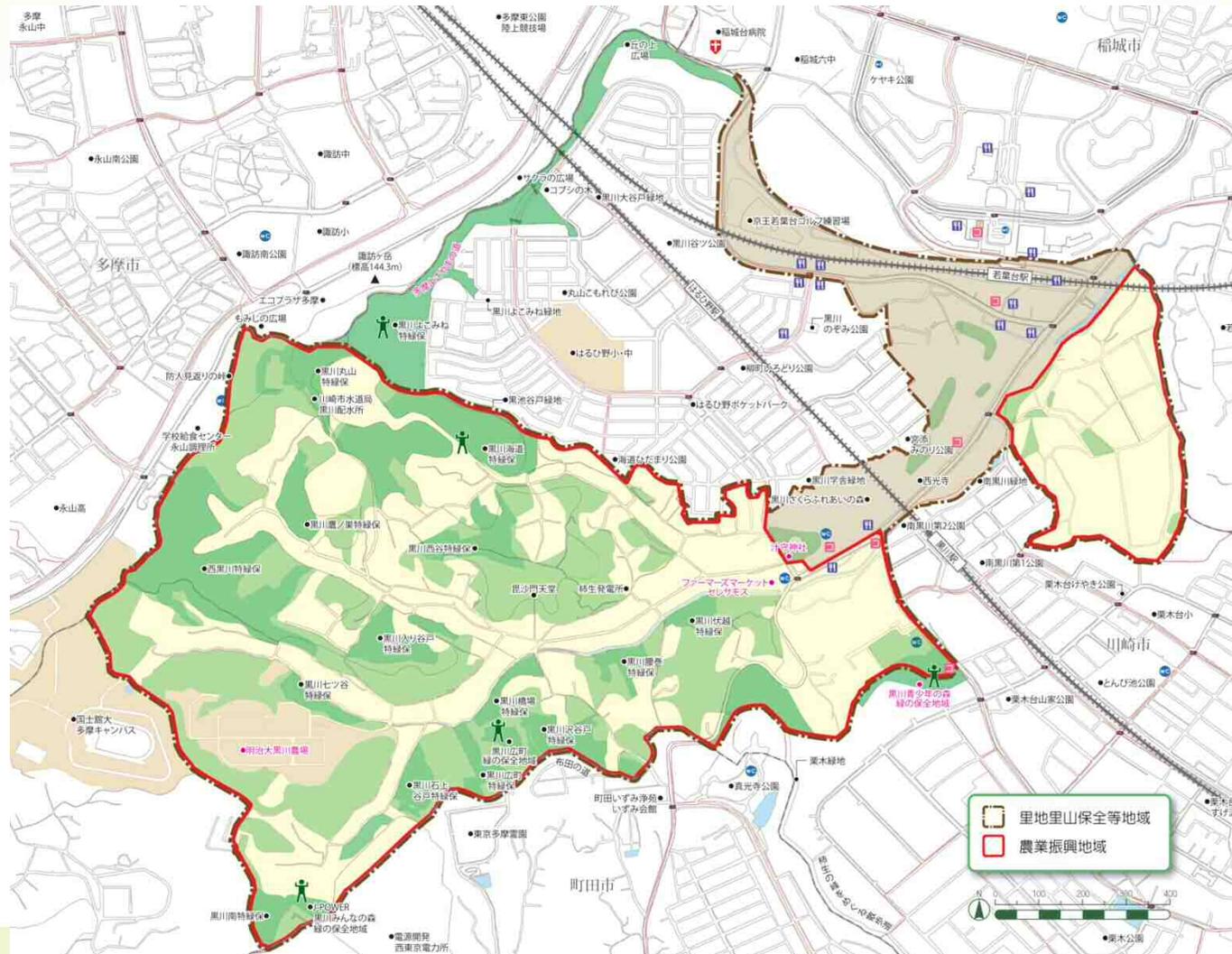
目的：明治大学と川崎市が「農業研究・実験機能」、「山林の保全と活用機能」及び「農業体験・交流機能」における連携を通じた地域づくりの推進。

組織：具体的活動の推進するため「農産物等研究専門部会」「地域活性化検討専門部会」「里地里山保全利活用専門部会」の3つの部会を立ち上げ、相互連携を図りながらテーマに沿った活動を行う。

2

対象地

下記の農業振興地域を中心に、里地里山保全等地域を対象とする。



3

基本目標と基本方向

基本目標

地域で守り育てる身近な農と環境

～地域の農業資源・環境資源・人的資源を活用した
地域の活性化や地域交流の推進～

基本方向



4 実施方針

実施方針

地域・大学・区民・行政等の協働により下記の方針を推進

地元農産物の販売促進
と加工品の開発

農や里地里山を体感する
イベントの実施

里山の管理や活用の推進

実施体制と役割

農産物等研究専門部会

農畜産物、林産物及び加工品の栽培や販売などにおける課題を整理し、地域の活性化につながる農産物等の調査・研究を行う。

- ① 新規農産物や加工品の開発検討
- ② 農産物のイベント活用やPRの推進
- ③ 大学連携・地域コミュニティづくり

地域活性化検討専門部会

農や緑、環境を通じた地域の活性化や地産地消の推進につながるイベント等の実施や必要な施設等の検討を行う。

- ① 農と里山の体感
- ② 地域資源の発見・創造・育成
- ③ 地域・大学・行政との協働

里地里山保全利活用専門部会

多摩丘陵の里地里山の地域的価値を見出し、里地里山の保全、再生、活用を目指す。

- ① 里地里山の認知促進
- ② 里地里山保全管理体験の推進
- ③ 里地里山を活用した大学連携・地域コミュニティづくり

5 H28以降の実施事項(案)

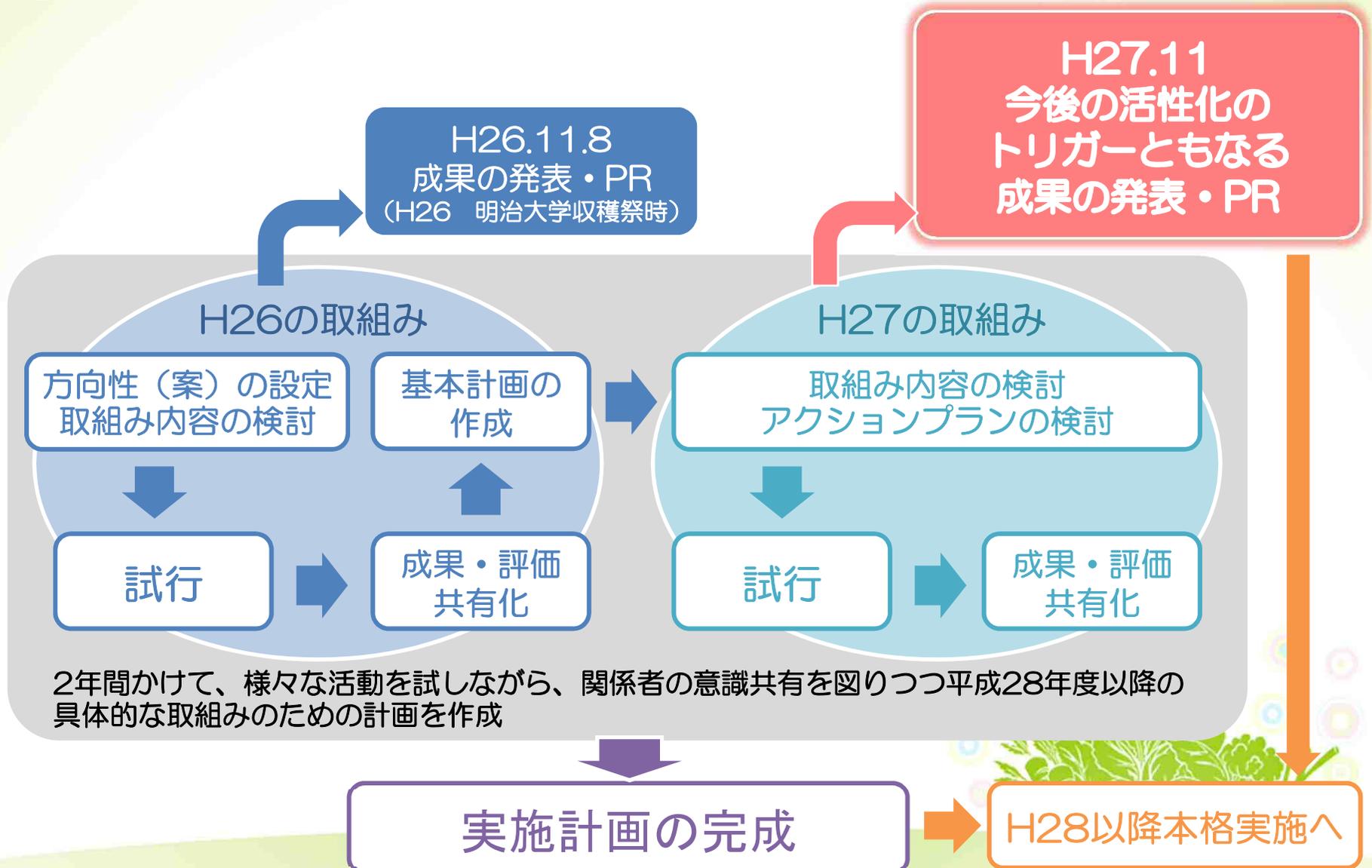
今年度末には、平成28年度以降の具体的な活動内容を基本計画としてまとめるが、平成27年度も今年度と同様試行的取組みをしながら、最終的な活動内容を決定していく。

下記、実施事項は暫定項目であり、今年度の取組みが全て終了後、再度精査を行う。

	取り組みの方向性	取り組み事項	具体的内容
農産物等研究専門部会	①新規農産物や加工品の開発検討	新規農産物や在来農産物の研究・栽培	地元農家への提案、協働実施
		農産加工品の開発、新規商品開発	農産加工品の検討、商品開発
		商品化、販売	ブランド化、試食会等によるPR
	②農産物のイベント活用やPRの推進	農産物や農園等のイベント活用	イベント支援、農産物等の提供
農産物や農環境のPR		マニュアル作成配布、種苗配布、試食会の実施	
地域活性化検討専門部会	①農と里山の体感	子供向けイベント・講座の開催	食農イベント・グリーンツーリズム
		一般向けイベント・講座の開催	農業体験＋料理教室
	②地域資源の発掘・創造・発信	地域資源の発掘・創造	地場産物を活用したレシピ研究
		農と環境のまちづくりの情報発信	HPの維持更新、散策PR
里地里山保全利活用専門部会	①里地里山の体験・人材育成	里山遊び体験・管理体験の実施	保全管理講座・イベントの開催
	②里地里山保全管理	市民団体等の里山活動支援	活動PR、イベント等の連携
3部会共通	地域コミュニティづくり	大学・地元農業者・市民農園等利用者等の交流	交流会の開催
	大学・地域連携	大学や地元農業者と連携した各種取組み	大学・地元連携による研究・開発・イベント実施
	3部会共有イベント	3部会連携PR・イベントの実施	デザイン祭の開催(3年に1度)
	市民の意向の把握	アンケート等によるニーズ等の把握	収穫祭でのアンケート

6

<参考>平成26・27年度の取組み



【平成27年度のデザイン祭(プレ)について】

～2年間の試行の総括と今後の活動の起爆剤として～

第1回黒川地域連携協議会 検討・確認事項等

【たたき台】



1 背景

基本目標の実現に向けた現状の取組みの課題

課題	対応の視点	対応の方向性
各部会での情報発信・PRでは、 情報発信力がやや弱い。 試行的取組みに対する 体感・実感 できる到達点がやや希薄。	達成感の 共有化	関係者や地域が一体となって発信でき、 2年間の試行の目標や達成感が持てる区 切りとなるイベントの実施。
農と緑を主体とした取組みでは、 興味対象が限定される。	興味対象 の拡充	黒川の自然環境を舞台に、農と緑以外の 手段により、新たなファンを獲得する。
生活に密着した活性化の取組みが 主体で、 農業者間での温度差が懸 念される。	地域住民が 楽しめる	農業者等地元の方々も楽しめ、やりがい、 新たな発見を喚起する取組みの実施。
一部、親子等参加はあるが総じて 高齢者層等、 参加者の年齢層の偏 り が懸念される。	多世代参加	次世代を担い、情報発信力のある若者を 中心に多世代が関心を持てる取組み。
単発的な取組みでは 継続性や連続 性 を持たせることが難しい。	継続性	黒川の、麻生区の、川崎市の文化として 根付いていく取組みの実施。

現状の課題の包括的解決を図りつつ、地域が一体となる「イベント」の開催

2 イベント(デザイン祭)の基本的考え方



- この取組みも1つの試行であるため、収穫祭前後の期間限定のイベントとする。
- 27年度は試行とし、28年度本格実施する。

3

実施概要

<p>テーマ</p>	<p>『黒川里地里山デザイン祭』 <small>黒川地域の農と緑を活用した合同イベント</small> ～里地里山 農・人・時間・資源をつなぐ作品づくり～</p>
<p>目的</p>	<p>黒川地域の里地里山をステージに、「地域-人-資源」をつなぎ、里地里山のあり方を考える機会とすることで、現在の黒川における農や環境を知り、地元住民だけでなく来訪者と課題を共有することで“自分事”にし興味者の拡大、ファンを獲得するものとする。「地域コミュニティづくり」「交流人口の増加」「地域の情報発信」「地域の活性化」を主要目的とした地域住民と興味者のマッチングプロジェクト。</p>
<p>内容</p>	<p>「里山は人が自然を創造する最前線※」を理念に、黒川エリアを里地里山のあり方を考えるキャンパスと見立て、若者と地域住民等とが共創し地域に根ざした作品（もの、こと、食）を制作、継続的な地域展望を拓く活動を目的とするデザイン祭。 <small>※里山＝自然と人里に隣接した、人の手や影響を受けた生態系や環境</small></p> <p>地域住民・制作者・来場者ともに里山を考え、創造するイベント</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>制作者・地域住民</p> <p>里山(黒川の環境)をテーマに 作品(もの、こと、食)を共創</p> </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>来場者(興味者)</p> <p>作品に触れ・体験し 里山の昔・今・未来を歩いて知る</p> </div> </div>

4 基本的な進め方・実施体制等

(1) デザイン祭への進め方(基本的考え方)

- ・1つの目標に向かって、様々な主体が協働しながら、活動することで様々な課題をゆるやかに解決しながら、作品等をつくりあげていくプロジェクト
 - すなわち、デザイン祭までの過程・道筋が重要なプロジェクト
 - 地域・人・資源をつなぐプロジェクト
- (×単にアート作品を置く→○時間をかけ地域や人と対話しながら作品を制作)

(2) 推進体制

黒川地域連携協議会-----H26デザイン祭実行委員会(事務局)
(各専門部会のメンバー等により構成)

(3) デザイン祭の担い手

地元住民、地元農業者、市民農園や体験農園等に関わっている方々、セレサ川崎、神奈川県農業技術センター、明治大学(その他麻生区連携大学(和光大学、昭和音楽大学、日本映画大学、田園調布大学、玉川大学)、市民団体、近隣小学校、マイコンシティ関連企業、黒川青少年野外活動センター、麻生区役所、川崎市緑政部・産業振興部・農業振興センター、市民ボランティア等(順不動)



5 実施する主な枠組み

本イベントにおいて、
「環境デザイン」「農産物デザイン」「ライフスタイルデザイン」を行うことで、
「興味者の獲得」から「共感・ファンの獲得」を視野に展開。

「デザイン作品」創作・展示

＜里地里山デザイン＞
里山をテーマに作品を展示。
今後の里山のあり方を想像
するとともに、若者の参加
を取り込む。
和光大学芸術学科協力



農産物商品の創作・販売

＜農産物デザイン＞
大学と連携し農産物による
商品を食べられる商品試食
販売。



里地・里山体験

＜ライフスタイルデザイン＞
地元者と来場者の共有の場
として体験イベントを実施。
ルート上での体験コーナー



ボランティアとの協働

＜ライフスタイルデザイン＞
里山の暮らしを自分事にする
ことで共感獲得。



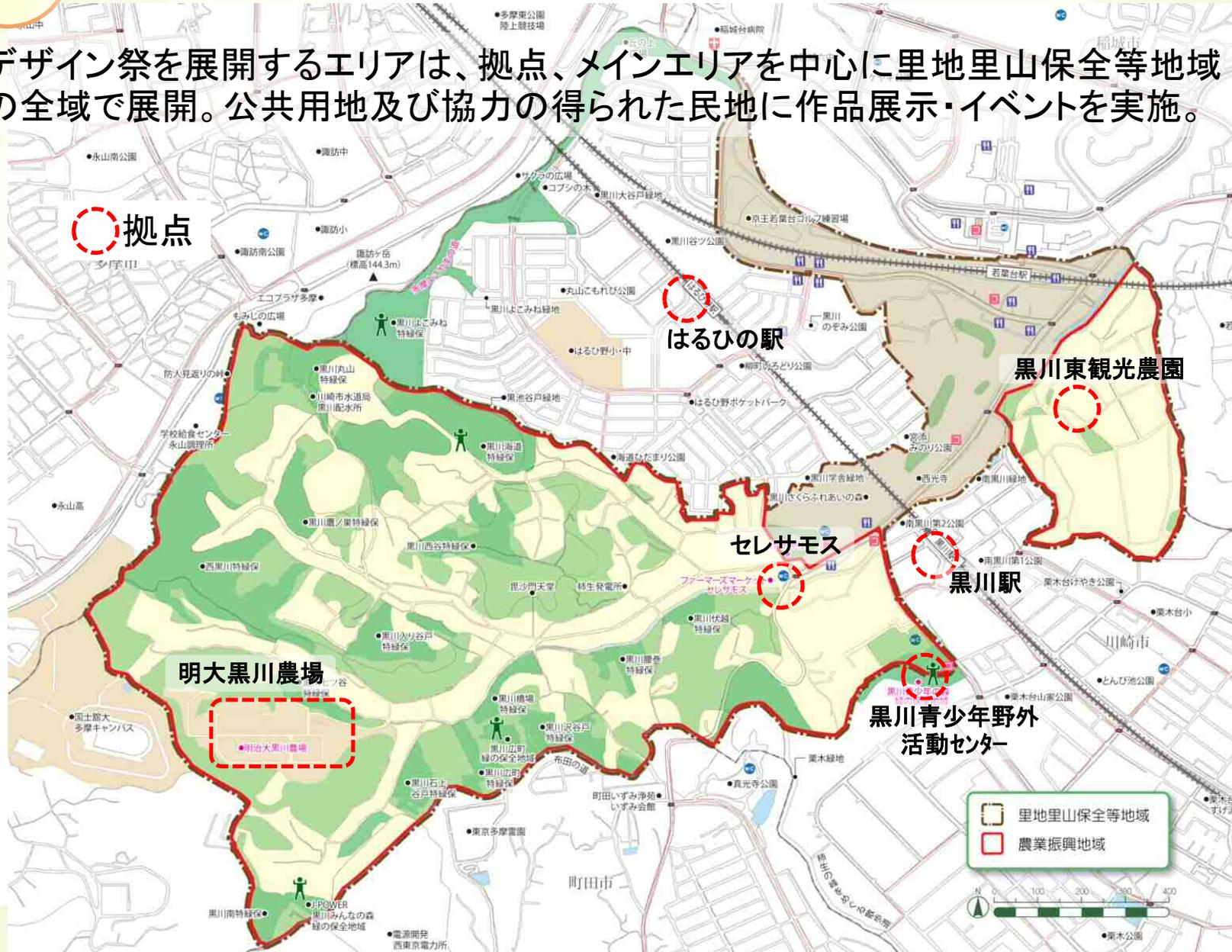
スタンプラリー

＜ライフスタイルデザイン＞
各ポイントの参加を促進。



6 里地里山デザイン祭展開エリア

デザイン祭を展開するエリアは、拠点、メインエリアを中心に里地里山保全等地域の全域で展開。公共用地及び協力の得られた民地に作品展示・イベントを実施。



7 デザイン祭でのアイデア例

平成27年度の様々な協働作業の中での成果をデザイン祭として発現できる様々な企画を実施していく。下記は、参考としてデザイン祭取組みの一例を提示。実際には各部会においても、アイデアを集い実施していく。

カテゴリー	実施事項	担い手
里地・里山体験	①小学生と大学の協働による里山遊び道具づくり →デザイン祭時に里山遊び場・イベント活用へ	近隣小学生、連携大学
	②大学と小学生によるビオトープづくり	小学生、連携大学、地元農家
	③地元ガイドによる里地里山ツアー	地元住民
	④小学生と市民団体による田んぼアート	小学生、市民団体、地元農家
「デザイン作品」創作・展示	①大学と地元農家との協働による農のアート作品づくり	和光大学芸術学科、地元農家
	②大学生による森のアート作品づくり	連携大学
	③大学生と小学生によるecoデザイン環境作品づくり	連携大学、小学生
	④大学と地元農家による里山マナーアップサインづくり	連携大学、地元農家
農産物商品の創作・販売	①地元農家の主婦による地場野菜を活用した創作料理	地元農家の主婦
	②近隣レストランでの地場野菜メニューの提供	近隣飲食店
	③掘り取り体験と黒川産野菜を使った料理教室の開催	JAセレサ、東京ガス、麻生区

7 デザイン祭でのアイデア例(イメージフラッシュ)



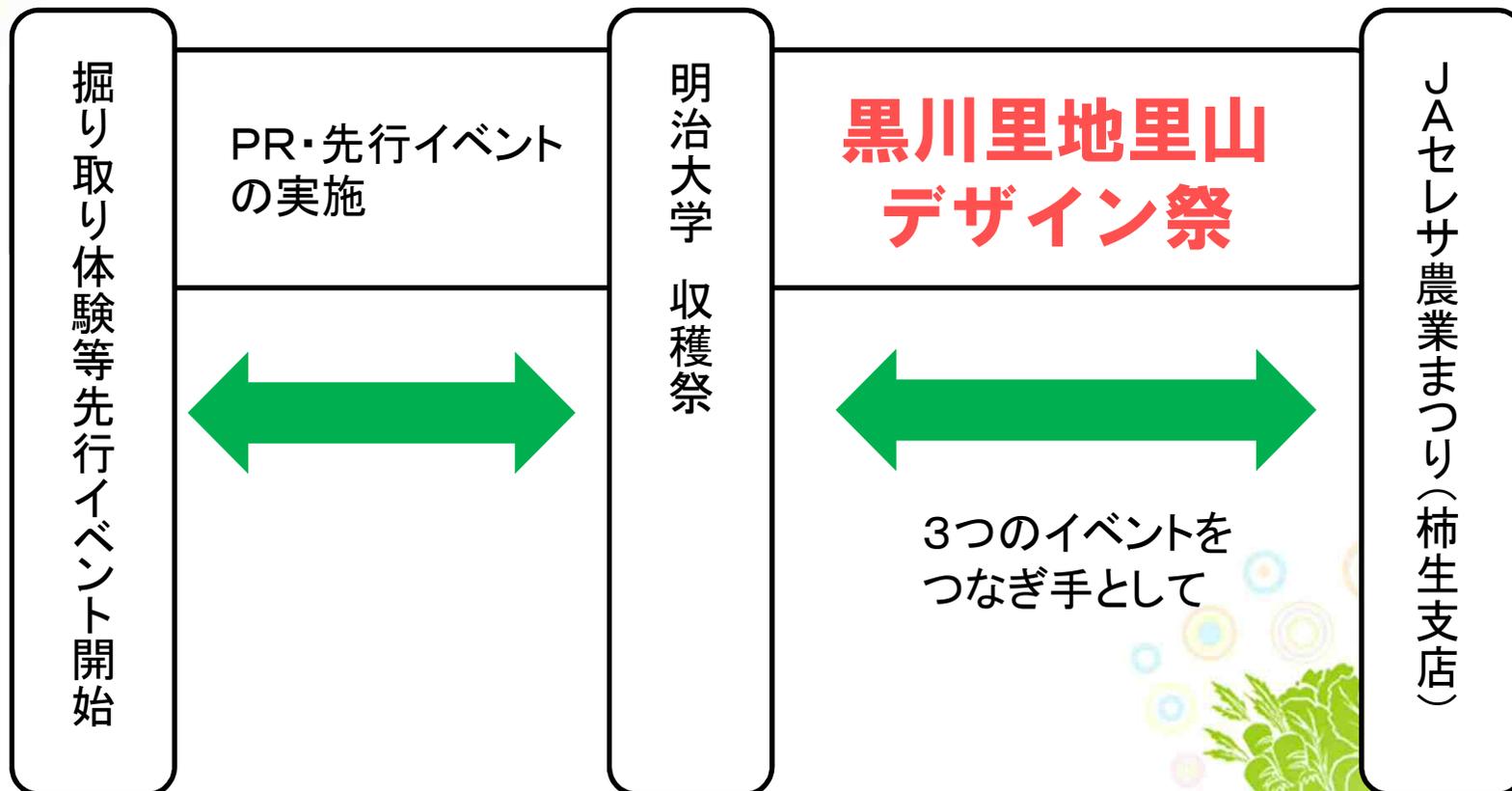
8 実施期間(たたき台)

平成27年度デザイン祭（プレ）では、明治大学の収穫祭をオープニングに、JAセレサ農業まつりまでの期間を開催とし、3つのイベントのつなぎ手の役割を果たす。

10月初旬

11月初旬

11月中旬



オープニング

フィナーレ

9

開催に向けたスケジュール

平成26年10月	平成26年度第2回黒川地域連携協議会 平成27年度デザイン祭（プレ）骨子案決定
平成26年12月	具体的実施事項案の決定
平成27年1～4月	担い手との調整
平成27年5月	作品やイベントづくりスタート
平成27年6月	第1回黒川地域連携協議会
平成27年8月	デザイン祭に向けたPRイベント （各種イベントを集中的に実施し、PR）
平成27年9月	本格的PR開始
平成27年10月	第2回黒川地域連携協議会 作品やイベントの現地準備開始 デザイン祭プログラムの完成
平成27年11月	デザイン祭及び収穫祭の開催



10 開催に向けた留意事項・調整事項

円滑な開催に向け、以下のような留意事項、また事前に調整すべき事項があげられる

- 黒川デザイン祭の運営をどのように行うか（平成27年プレ実施、平成28年本格実施後、協議会において検討が必要であり、平成29年以降については、関係者による実行委員会形式にする等）
- 地元住民の参加
- 活用可能な場の確保（公共用地及び民地）
- 担い手との調整
- PR戦略

